

佐伯市戦後五十史 (二二)

## — 池田市政と

## 産業・都市基盤の整備 —

矢野彌生

(会員 佐伯市中山区)

〈前号〉

二〇 池田市政と産業・都市基盤の整備 (続)

(五) 池田第一土地区画整理事業

二一 池田市政と産業都市基盤の整備

(六) 池田第二土地区画整理事業

〈昭和四十九年から始まった池船区の区画整理事業〉

佐伯市は県南地域の行政商工業の中心都市である。池田第二地区は、南に一級河川の番匠川の本流、北は支流の中江川にはさまれた位置にあり、池田第一地区に接した地域である。また、中江川を隔て中心市街地に接して

おり、住宅地としては非常に恵まれた位置にあるといえよう(第1図参照)。

池田第二区画整理事業が実施された池船区を字名でみると、佐伯市大字池田ドウジリ、中通、柳原、丸エゴの全域。佐伯市大字池田字渡場、大開、竹の瀬、今切の一部が含まれる(一)。

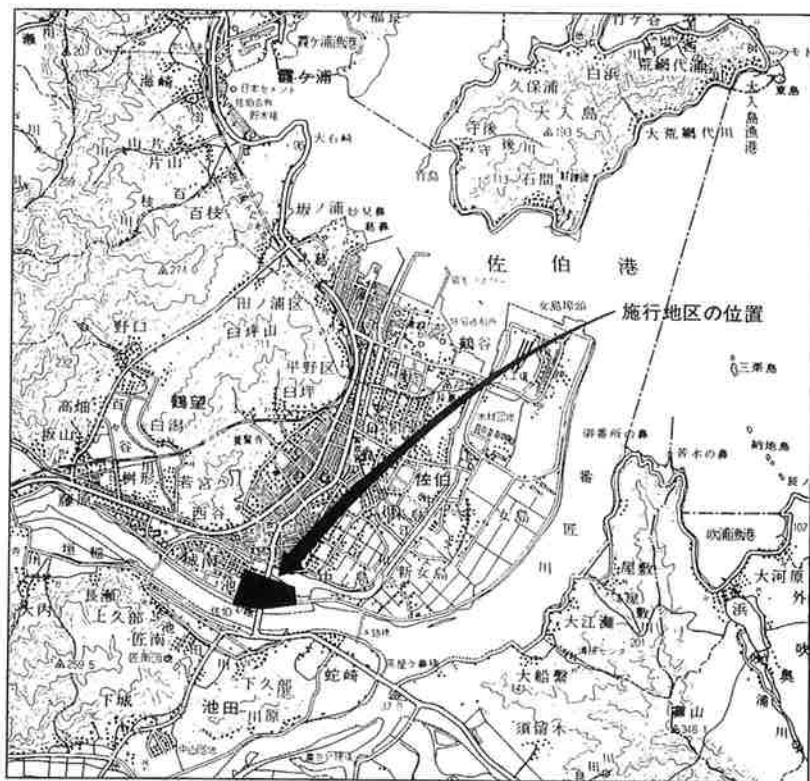
池田第二地区は、池田第一地区に接しており、家屋が密集している地域であり、また、家屋が点在している地域と農地とに区分されており、当時は住宅の建設が急増しており、スプロール化(都市の郊外に無秩序・無計画に宅地が広がっていくこと)しつつあった。したがって健全な都市計画、住宅地域の建設が必要な時期であった。

昭和四十九年(一九七四)に始まった池田第二土地区画整理事業は十二年の歳月を経て昭和六十一年(一九八六)に完成している。当時の佐伯市議会議長であった新田万作は、事業完成のあいさつで次のように述べている。

(前略) この池田第二地区は、中江川を挟んで中心市街地に近接し、すでに区画整理事業を完了した池田第一地区と接し、佐伯市の南部地域及び鶴見町、米水津村、蒲江町から市街地に至る玄関口に位置し

住宅地としてまた近隣商業地として大きく発展することが期待され、計画的な市街地整備を図ることが緊急の課題となったのであります。地元関係者並びに行政担当者の絶大なご協力、ご努力により、一五・六〇、権利者二六八人という大事業が昭和四十九年度着工以来十二年の歳月と二十一億円の費用を投入して、幾多の困難を克服してみごとに完成されたことに深く敬意を表すると共に、関係の皆様のご協力ご努力に対しお礼を申し上げますのでございます（以下略『完成記念誌』）。

〔区画整理事業の経過〕 同地区の区画整理事業の経過と整理後の公用地の内訳をみると、第1表・



第1図 池田第二土地区画整理事業の施工位置

第1表 区画整理事業の経過

年度	課名	担当課長	法的手続及び仮換地指定	審議会委員	評価委員
32			都市計画決定 (12.19)		
49	都 市 計 画 課	山本 茂樹	中江川公有水面埋立免許 (7.30) 事業計画認可 (11.9) 第1回審議会(50.2.26)	50年1月28日 学識経験者より 〔小城 猛 宇留島豊彦 (50.6.12~) 小嶋 準一 (53.4.17~) 吉田 寿 所有者より 会長 野口 勝 野口 丈夫 大本 三一 佐藤 照喜 肥川 清 前田 義男 高瀬喜四郎 借地権者より 原 延男	50年2月26日 高野新太郎 中野 宝市 高山源四郎 伊東 政 高司 恒一
50		亀山 登			
51					
52			第1回仮換地指定 (10.9)		
53			第2回仮換地指定 (11.1) 第1回事業計画変更認可 (54.3.16)		
54			第3回仮換地指定 (11.15) 第4回 " (55.3.1)		
55		佐藤 正之	中江川公有水面埋立竣功 認可 (4.15)		
56			第5回仮換地指定 (5.29) 第6回 " (9.22) 第2回事業計画変更認可 (57.3.29)		
57			第7回仮換地指定 (7.20) 第8回 " (11.8)		
58		宮崎 博吉	第9回仮換地指定 (5.26) 第3回事業計画変更認可 (6.16) 第10回仮換地指定 (10.6)		
59	桧垣 幸作	第4回事業計画変更認可 (60.2.18)	55年5月14日 学識経験者より 〔小嶋 準一 (55.5.20~) 於久富士男 (56.6.25~) 岡 一磨 (57.8.2~) 永石 晏嗣 (59.4.2~) 飯倉 祿郎 (60.4.1~) 三股 信一 所有者より 会長 野口 丈夫 大本 三一 佐藤 照喜 肥川 清 前田 義男 高瀬喜四郎 池田 英幸 借地権者より 原 延男		
60	工藤 久義	換地処分 (5.7) 工事完了 (61.3.31)			

(『池田第二区画整理事業完成記念』による)

第2表のとおりである。すなわち、すでに述べてきたように、同事業は昭和四十九年に着手して十二年間の長い期間を経て完成している。いま、当時の池船区の区画整理の状況について、新聞報道を通して池船区の区画整理の経過を紹介しよう。

○八月から家屋移転—佐伯市池船の区画整理

○佐伯市が近代的な町づくりを進めている池船区の土地区画整理事業は、整地と仮換地の区割りも終えた。四月末までに集めた仮換地に対する所有者の要望などを、再修正したあと、八月中旬から家屋移転にとりかかる。

番匠川と中江川にはさまれた中州にあたる同地区は、百六十世帯、八百五十人が住んでいる。しかし、住宅が建てこんでおり、道路もせまく、

第2表 整理後の公共用地内訳

区 分	名 称	道路 種別	形 状 寸 法			
			巾 員 (m)	延 長 (m)	面 積 (㎡)	
街	幹線街路	広小路・池船線	388	15.0	325.5	5,264.52
		女 島・城南線	◇	16.0	604.4	9,728.80
		今 切・渡場線	◇	12.0	561.6	6,791.54
		船頭町・池船線	◇	8.0	164.3	654.78
	小 計			1,655.8	22,439.64	
路	区画街路	巾 員 8.0m		395.9	3,313.37	
		巾 員 6.0m		2,964.1	17,920.50	
		小 計		3,360.0	21,233.87	
		計		5,015.8	43,673.51	
公園緑地	公 園				8,048.30	
	緑 地				3,477.41	
	計				11,525.71	
河川水路	水 路		2.0	62.4	127.89	
	護 岸 敷		3.0	732.8	2,198.44	
	計			795.2	2,326.33	
合	計				57,525.55	

(『池田第二土地区画整理事業完成記念』による)

防災面で危険なため、市が四十九年度から中江川の半分を埋め立てるなど区画整理事業にとりかかった。

対象面積は、埋め立てによる造成地三万五千平方メートルを含め、約十五ヘクタール。道幅十六メートルと十二メートルの幹線道路を中心に六一八メートルの道路を縦横に設け、近代的な住宅街にし、ここに現存の家屋二百二十二戸のうち、八割の百八十戸を移転させる。

この町づくりは昭和五十六年度完成の予定で、総事業費は当初より五億円多い二十億円を見込んでいた『朝日新聞』昭和五十二年五月一日版。

○佐伯市池船区の区画整理進む―16メートル道路が開通・家屋移転、護岸工事も着々―○佐伯市が、昭和四十九年度から七年計画で進めている池船地区の土地区画整理事業は、地区の北側を流れている護岸工事と替え地の区割りを終って、幅十六メートルの幹線道路が開通するとともに、家屋移転などが本格化し、日ごとに近代的住宅へ脱皮している。

地区は、中江川と番匠川に囲まれた中州の住宅密集地で、事業の対象面積は十五・六ヘクタール。非住家を含めて二百二十二戸があり、百六十世帯、八百四十七人が住んでいる。



道路幅も広く新しい住宅地に生まれかわった池船地区(『読売新聞』昭和54年6月28日)



都市計画道路(16m)女島城南線(『池田第二土地区画整理事業完成記念』による)

るが、道路も消防車や救急車がや  
と入れるくらいで狭く、防災上から  
危険度が高かった。

このため、総事業費約十五億六千  
万円をかけて、幅十六メートルと十二メートルの  
幹線道路を中心に、六メートル八メートルの道路  
を縦横に通し、住宅地の約八割を道  
路沿いの替え地に建て替える。

事業は中江川の護岸工事から始め  
られ、約六百メートルの間は、川幅が八十  
メートルから所によつては百四十メートルとまち  
まちだったのを、四十五メートルに統一し  
埋め立て。三万四千五百八十一平方  
メートルの用地を造成して、整地作業と併  
せて行われていた緑地帯づくりもほ  
ぼ終わっている（『読売新聞社』昭和  
五十四年六月二十八日版）。



①施工後の全景写真（『池田第二土地区画整記念完成理事業』による）

○ニュータウンの面目、佐伯市池船区一區画  
 整理事業大詰め。○佐伯市池船区東部地域が、  
 區画整理事業の進展で見違えるようにきれいな  
 住宅地となってきた。一帯は番匠川に架かって  
 いる佐伯大橋（国道388号線）のたもと、番  
 匠川と中江川とに囲まれた水田地帯だった。  
 徐々に住宅が増えてきたが、道路は私道が多く、  
 狭くて入り組んでおり雑然としていた。

これが土地区画整理の実施で一変した。城南  
 区から東に伸びてきた幹線道路は幅十六メートルと広  
 く、両側に歩道があり、ヤマモモの街路樹が整  
 然と植わっている。家並みも新しくなった。一  
 般住宅は建て替えが目立ち、それまでは全くな  
 かったビルも建った。建設会社や船会社の社  
 屋・マンション・公務員寮など三、四階建ての  
 ものが数棟。児童公園や川に沿った緑道（災害  
 時の避難場所と散歩道を兼ねる）も新設された。  
 水門を越えてさらに東側には市民体育館が建  
 設されており、そのうちに池船―体育館―新女  
 島と街路は伸びていくことになっている。昭和



③池船緑道（『池田第二区画整理事業完成記念』  
 による）



②見違えるようにきれいにな  
 った池船地区の住宅（『大分合  
 同新聞』昭和58年2月6日版に  
 よる）



④ひまわり児童公園（『池船第二土地区画整理事業完成記念』による）

五十九年で区画整理事業は終わる（『大分合同新聞』昭和五十八年二月六日版）。

〔写真で見る、区画整理事業前の池船区の状態〕 池船区の区画整理事業の記述を終えるにあたって、事業前の地区の様子をいくつか『池田第二地区区画整理事業完成記念』（昭和六十一年、佐伯市）によって紹介しよう。

〔注〕（一）『池田第二地区区画整理事業完成記念』（昭和六十一年、佐伯市）

（続く）



②番匠川堤防より（施工前）



①城山から見た池田第二地区（施工前・昭和51年10月28日）右





③佐伯大橋付近(施工前)



⑤住吉橋より(施工前)



④池船橋より(施工前)



①城山から見た池田第二地区(施工前・昭和51年10月28日)左